

# 同志社大学

## 2008年度 個人研究費研究経過・成果報告書

2009年 3月 16日提出

所 属	職 名	氏 名
人文科学研究所	准教授	林田 秀樹
研 究 題 目	インドネシア・西カリマンタン州における アブラヤシ農園開発と労働力受容に関する実証研究	
研 究 成 果 の 概 要	<p>(1) 本研究費を用いて、2007年度に引き続き、2008年9月にインドネシア共和国西カリマンタン州州都・ポンティアナック、並びに北スマトラ州州都・メダンに渡航し、両州におけるアブラヤシ農園開発と労働力受容に関する諸事項についてアンケート調査・聞き取り調査を行い、特定のアブラヤシ農園の幹部、及び農民並びに農園労働者との関係を築いてきた。以後、それらの人々と連絡を取り合い、両州における上記諸事項についての事例研究を進めつつある。</p> <p>(2) 具体的な研究成果としては、(1)の事項と関連して、以下の論文②、及び小論文を公表し、併せて学会報告を下記のテーマで行った。また、これと関連して従来から進めていたインドネシアにおける地域間所得格差に関する研究を論文①にまとめた。</p> <p>論文 ① 「インドネシアにおける中央-地方間所得格差の変動—農・鉱業部門生産の動向に焦点を当てて—」『社会科学』第83号、1-32頁、2009年2月。</p> <p>② 「インドネシアにおけるパーム油生産急増の『副産物』と代償」『東西南北』(和光大学総合文化研究所年報)2009年号、35-50頁、2009年3月。</p> <p>小論文 「森林が農園になるまえに一アブラヤシ農園面積拡大の実態と問題点」『インドネシア・ニュースレター』(日本インドネシア NGO ネットワーク)第64号、2-9頁、2008年8月。</p> <p>学会報告 「インドネシアにおけるアブラヤシ農園開発と労働力受容—全国的動向と西カリマンタン州の事例」(東南アジア学会関西地区例会、2008年7月26日、於 京都大学)。</p>	